

2021年度 山梨学院大学 学術研究業績一覧

【グローバルラーニングセンター】

(2021/4/1～2022/3/31 発表分)

氏名	業績区分	共著・単著の別 (単独・共同の別)	タイトル	出版社(発行所・掲載誌等)・主催(学会名・大会名等)	発行年月日 (発表年月日)
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	単著/単独	甲府盆地を越えて世界へ『国際共修・語学教育実践』創刊記念号発刊によせてー	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 2-3.	2022/3/23
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	共著/共同	新英語プログラムを知るー英語カリキュラム改編の骨子ー	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 45-48.	2022/3/23
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	共著/共同	YGU 全学横断型 Can-do プロジェクト進捗報告	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 25-28.	2022/3/14
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	共著/共同	日本語プログラムを知る	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 49-52.	2022/3/23
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	単著/単独	国際化とは何か	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 33-36.	2022/3/23
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	共著/共同	国際共修のための語学教育: アカデミックな場面への参加を可能にする日本語授業の Can do リスト 2021	山梨学院大学グローバルラーニングセンター	2022/3/31
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	単著/単独	GLC はどのような人材育成を目指すか	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 37-40.	2022/3/23
齊藤 眞美	学術論文(査読論文以外)	単著/単独	授業評価項目を共に考える	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 41-45.	2022/3/23
劉 頌浩	学術論文(査読論文)	単著/単独	日本中国語教育縦横談——日本中国語教育专家相原茂教授专访	北京外国语大学《国际汉语教育(中英文)》	2021/9/15
劉 頌浩	学術論文(査読論文以外)	共著/共同	中国語プログラムを知る	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 53-56.	2022/3/31
トンプソン 美恵子	学術論文(査読論文)	共著/共同	「日本人大学生が書いたナラティブ作文の評価——日本語ナラティブ作文用の評価項目を用いて」	『日本語/日本語教育研究』(12), 229-244.	2021/9/1
トンプソン 美恵子	学術論文(査読論文)	共著/共同	「日本語母語話者教師が考えるナラティブ作文の Good Writing —評価の際に重視された項目より」	『日本語・日本語教育』(5), 1-22.	2022/3/31
トンプソン 美恵子	学術論文(査読論文以外)	単著/単独	「YGUグローバル・エキスパート認定」	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 29-32.	2022/3/24
トンプソン 美恵子	学術論文(査読論文以外)	共著/共同	「プロンプトによるナラティブ作文の評価の違いー高得点を得た『よいナラティブ』の提示ー」	『AJジャーナル』(13), 27-35.	2021/7/1
トンプソン 美恵子	学術論文(査読論文以外)	共著/共同	「国際共修(日本語)を知る」	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 57-60.	2022/3/24

2021年度 山梨学院大学 学術研究業績一覧

【グローバルラーニングセンター】

(2021/4/1～2022/3/31 発表分)

トンプソン 美恵子	学術論文 (査読論文以外)	共著/共同	「新英語プログラムを知る—英語カリキュラム改編の骨子—」	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 45-48.	2022/3/24
トンプソン 美恵子	学術論文 (査読論文以外)	共著/共同	「海外協定校とのオンラインによるPBL型国際共修の試案—南昌大学との事例から—」	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 13-20.	2022/3/31
トンプソン 美恵子	学術論文 (査読論文以外)	共著/共同	「『日本語サポートデスク』の取り組み—3年間の活動状況とその成果—」	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 21-24.	2022/3/24
トンプソン 美恵子	口頭発表	共著/共同	「日本語母語話者教師・非母語話者教師はナラティブ作文評価でどのような項目を重視するか—重視度調査と上位作文に対するコメントの分析を通して—」	『第55回アカデミック・ジャパニーズ・グループ定例研究会』	2022/2/20
トンプソン 美恵子	口頭発表	共著/共同	「東南アジアの大学で教える日本語教師による ナラティブ作文の評価—総合評価と項目別評価の結果から—」	『タイ国日本語教育研究会第34回年次セミナー』	2022/3/19
中山 由佳	口頭発表	共著/共同	オンライン授業における言語管理：大学正規学生（学部留学生）対象授業	言語管理研究会 言語管理と言語教育分科会	2021/9/4
中山 由佳	口頭発表	共著/共同	演劇を導入した言語文化教育における「できない」が生み出す可能性と創造性、包摂	言語文化教育研究学会 第8回年次会	2022/3/5
河野 礼実	学術論文 (査読論文以外)	単著/単独	初年次留学生を対象とした大学密着型日本語科目の取り組み—留学生が順調に大学生活をスタートするために—	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 5-12.	2022/3/14
河野 礼実	学術論文 (査読論文以外)	共著/共同	YGU全学横断型Can-doプロジェクト進捗報告	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 25-28.	2022/3/23
河野 礼実	その他	単著/単独	日常会話における人称使用—『日本語日常会話コーパス(CEJC)』を材料に—	東京外国語大学 国際日本研究センター対照日本語部門 講演会「コーパスを使った人称使用研究」	2021/9/4
金 桂英	口頭発表	共著/共同	中国語を母語とする日本語学習者の漢字語彙に対する認知—日本語学習者から見た日本語世界の記述に向けて—	中国語話者のための日本語教育研究会 第51回研究会	2022/3/26
金 桂英	学術論文 (査読論文以外)	共著/共同	「日本語サポートデスク」の取り組み—3年間の活動状況とその成果—	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 21-24.	2022/3/23
金 桂英	学術論文 (査読論文以外)	共著/共同	日本語プログラムを知る—日本語プログラムの概要と教育実践の紹介—	山梨学院大学グローバルラーニングセンター『国際共修・語学教育実践』創刊号, 49-52.	2022/3/23
古屋 憲章	学術論文 (査読論文以外)	共著/共同	当事者駆動型の言語学習環境設計とは何か—言語教育におけるインクルージョンの実現のために—	神田外語大学紀要34号	2022/3/31
古屋 憲章	口頭発表	共著/共同	葛藤場面を乗り越える力を養うケース教材の開発—タイにおける母語話者教師と非母語話者教師の協働をめぐって—	タイ国日本語教育研究会 第34回年次セミナー	2022/3/19
古屋 憲章	口頭発表	単著/単独	1980年代以降の日本における留学生受け入れの構図—日本語教育現代史研究の可能性—	韓国日語日文学会 2021年度冬季国際学術大会	2021/12/18

2021年度 山梨学院大学 学術研究業績一覧

【グローバルラーニングセンター】

(2021/4/1~2022/3/31 発表分)

古屋 憲章	口頭発表	共著／共同	中国語を母語とする日本語学習者の漢字語彙に対する認知—日本語学習者から見た日本語世界の記述に向けて—	中国語話者のための日本語教育研究会 第51回研究会	2022/3/26
古屋 憲章	著書	共著／共同	日本語教師の専門性を考える（1章、3章、おわりにを担当）	ココ出版	2021/6/30
古屋 憲章	その他	単著／単独	「表現文型」とは何か—「文型にちりばめられて」によせて—	台中日本語教師勉強会オンライン04	2021/4/17
古屋 憲章	その他	単著／単独	日本語教材としての文学作品—「文学作品をどう使うか」によせて—	台中日本語教師勉強会オンライン06	2021/12/19
古屋 憲章	その他	共著／共同	インクルーシブな言語学習環境をめざして言語学習者とともに 行う研究のあり方を考える—言語学習者のナラティブをどのよ うに分析し、どのように活かすか—	言語文化教育研究学会 第8回年次大会	2022/3/5
古屋 憲章	その他	共著／共同	言語文化教育研究学会のインクルージョンを考える—誰もが参 加しやすい学会の実現に向けて—	言語文化教育研究学会 第8回年次大会	2022/3/6
古屋 憲章	その他	共著／共同	日本語教師の対話と省察を促すケース教材の開発—自分の軸を 作る教師研修の可能性—	言語文化教育研究学会 第8回年次大会	2022/3/5